



▲ワラサのポイント
三戸浜沖の水深50メ
ートル前後
◀タナは底からハリス
分プラス3~4メートル

★三浦半島西岸のマダイ
五目は今、時ならぬワラサ
フィーバーに沸いている



▲基本はマダイ竿で狙うから
引き味も存分に楽しめる



▲サイズは3キロ前後とそろっている



▲この日のワラサは8人で船中7本



三浦半島葉山芝崎出船
ワラサの回遊に沸く!
三浦半島のマダイ五目

撮影●伊井 泰洋

ハリス、ハリは複数用意

◀ハリスを6号にするにはハリも頑丈なヒラマサバリを使うといい
▼クッションもハリス号数に適合したものがあるといい

▲ワラサ回遊中はハリス3~6号を用意すれば安心



取材日はワラサの群れが回遊中だったため、前半はワラサ専門狙いでハリス5~6号全長6メートル、後半はポイントを移動してマダイにターゲットを絞りハリス3~4号全長8メートルと仕掛けを替えた。相模湾では冬場にも居着きのワラサがいるので、ポイントによってはマダイ狙いをしているときにもワラサが食ってくること

がしばしばある。その場合はハリス4~5号全長8メートルにすれば、マダイを狙いつつワラサが食ってきても対応できる仕掛けになる。

ハリスは3号から6号、ハリもハリスの強度に合わせたサイズをいくつか用意しておけば、状況に応じた仕掛けを作って対応できる。

キハダシーズンもひと段落し、各船が得意の釣り物へシフトした11月。ここ三浦半島葉山芝崎の福栄丸では看板のマダイ五目で出船を再開した。

このころは三戸浜沖にワラサの群れが回遊し、まずはそれを狙ってからマダイ狙いへ転身するリリーススタイル。ワラサは3キロ前後をトップ2本くらい、後半のマダイはポツリポツリといったところだが、今後水温の低下に伴いマダイが深場へ落ちると良型狙いの好期を迎える。

(詳細は60ページ参照)

